平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098000013
法人名	医療法人　博愛会
事業所名	グループホーム　まごごろ
所在地	福岡県京都郡苅田町大字提字唐松2781番地
自己評価作成日	平成24年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月9日	評価結果確定日	平成24年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族とのつながりを大切にしている。家族と一緒のバス旅行や、家族や友人との面会時には楽しく寛いで頂けるようサポートしている。
日当たりの良い庭に四季折々の花を植え季節を感じて頂けるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

広い敷地内には、介護老人保健施設や通所介護、通所リハビリテーションが併設されており、専門職の連携や職員育成、交流の機会の確保等、スケールメリットを活用した日常的な連携が図られている。また、運営推進会議への家族の参加率が高いことも特徴的であり、年に3、4回、法人のバスを利用して家族と共に外出行事を企画する等、各種行事への積極的な案内が行われており、その関係性を大切に捉え、家族機能の活用を、心身の活性化や、充足感ある暮らしへと結び付けている。センター方式の活用にも取り組んでおり、職員個々の意識向上にもつながっている。今後も、個別の潜在するニーズや思いに向き合いながら、個別支援の充実や、地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に、理念と年度目標を唱和し、職員全員の意識付けを行っている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、グループホーム独自の理念を掲げている。また、年度目標も作成され、日々、確認を行っている。管理者は、法人としての理念会議に出席し、内部での伝達を図りながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館主催の行事に参加したり、散歩に出掛け地域の方と会えば挨拶をしている。	法人として町内会に加入し、回覧板等による情報収集により、廃品回収への協力や、公民館行事（ハーモニカ演奏等）に参加し、地域の方と交流している。中学生の福祉体験実習も受け入れている。法人内の連携も活かしながら、近隣の保育園との交流の機会もあり、地域住民として交流を積み重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	博愛苑全体の催し物に地域の方や家族と共に参加している。隣接する保育園の催し物にも地域の方や家族と共に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社協、包括、区長、民生委員、家族の参加で意見交換を行いサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回定期的に開催されている。全家族への案内を行い、8割近くの参加を得ている事は特筆すべき取り組みである。事業所の報告と共に、意見や要望を検討し、運営に反映させて行っている。また、年1回は、親睦を兼ねてバイキングを実施している。24年度は、地域包括支援センターの他、市職員への案内も行う予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に、包括や社協の参加を仰ぎ、ケアサービスの報告、アドバイスを頂いている。	介護保険課担当者やケースワーカーとの連携を図りながら、事業所の現状報告や情報共有を通じて、協力関係を築いている。苅田町介護を考える会「なの花」との連携も図りながら、認知症グループホームとして意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止のため、やむを得ず身体拘束が必要になったときは、家族に説明し承諾書を頂いている。	法人全体で身体拘束に関する研修を実施し、内部での伝達研修を行っている。現状として、身体拘束にあたる事例はないが、職員は禁止の対象となる具体的な行為を、関係者へ説明できるよう理解や意識を深めている。言葉かけについても、振り返る機会を持ちながら、意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待防止の外部研修に参加し、参加できなかった職員には別途研修を行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度のパンフレットは準備している。制度の利用が必要となる方への支援の準備は行っている。	入居時に、権利擁護に関する制度について説明を行っている。現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方はいないが、法人全体の研修や外部研修参加の機会を持ち、内部での伝達を行いながら、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族は、納得して頂いているものの、本人は、理解されていない。 時間をかけて、納得して頂けるよう、努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、いつも8割の家族の方の参加がえられている。それ以外にも区長、民生委員、認知を考える会、包括、社協に参加を仰ぎ、ケアサービスの報告、アドバイスを頂いている。	運営推進会議への家族の参加が多いことは特徴的である。年数回、法人のバスを利用して、家族と共に外出する等、各種行事にも家族の参加を募り、関係性を深めている。意見や要望は真摯に捉え、迅速な対応に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度開催する、全職員参加のミーティングに代表者に参加してもらい、職員の要望、提案を聞いてもらい運営に反映してもらっている。	全職員参加の月例ミーティングには、母体法人からの出席も得ており、直接、意見や要望を表出できる機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう、以前は契約職員からの採用であったが、現在は正職員として採用することにより、待遇面の整備をすすめた。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の固定化が定着し、働きやすい職場環境になるように心掛けている。	法人としての採用となっており、人間性を重視し、性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。行事の際には、入居者と共に琴を披露してもらう等、それぞれの得意分野を発揮する機会もある。法人全体研修の他、外部研修にも積極的な参加を促しており、実際に参加者も多い。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員全体が、利用者に対して丁寧な言葉遣いを行うこと、また人権を尊重した態度で接することを、法人として取り組んでいる。	外部研修や法人内研修への参加機会も多く、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。法人として、理念会議を開催する等、理念の共有や実践に向けた積極的な取り組みがあり、人権尊重への意識を高めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設する介護老人保健施設博愛苑での勉強会に参加している。外部研修にも職員自ら意欲をもって参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京築地区のグループホーム連絡協議会に参加し、交流や情報交換の機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族のみによる入居申し込みが多く、入居が決定した時点で出来る限り本人のもとに出向き、面接を行って、ご本人とお話のできる機会を持つようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後はご本人、ご家族の思いを傾聴して、安心して暮らせるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設する介護老人保健施設博愛苑の相談員、看護師長、リハビリ職員等と連携をとり、必要としている支援のサービスが提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が食器の後片付けをしている時など、入居者から「私が洗うよ」「何か手伝うことはない？」等の声かけがあり、できる仕事を共同や見守りで行うようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、クリスマス会、バスハイク等の行事には約8割のご家族が参加され、その際にはご家族の食事も用意し、ご家族、職員が共に本人を支えあう関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が関わってきた教室のお弟子さんや、教会の馴染みのお友達などが面会に来られ、1時間以上お茶を頂かれながら楽しく会話され笑顔で過ごされたりしている。	趣味活動や職歴、信仰等を通じた、これまでの馴染みの関係性の継続を支援し、来訪しやすい環境作りに配慮している。家族との関係性を大切にしており、実際に来訪する機会も多い。退去された家族によりハーモニカ演奏が披露される機会もあり、楽しみごとの一つとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昨年あらたに男性の入居者が入居されから、ホーム内の会話がはずむようになり、笑顔のなかった利用者も最近では笑顔が見られ会話に入るようになった。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院し退院後他の施設へ入所された方から、その後も再度当GHに入所したいとの希望もあり、経過状況を聞いたり知らせていただいたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	（12）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	琴の先生だった利用者に、お正月に琴の演奏をした後、思い出して爪弾きをして頂いたり、歌の得意だった方にはカラオケ、ゲームが得意な方にはカルタなど、本人が得意をすることを行うようにして対応している。	家族の協力も得ながら、センター方式を活用した情報収集に取り組んでいる。生活習慣やライフスタイルの継続を大切に捉え、様々な視点からアプローチが行われている。今後も個々人の意向の把握やニーズに向き合い、個別支援の充実が期待される。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や、家族、担当ケアマネージャなどから情報を入手し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	併設する老健の理学療法士からアドバイスを受け、その人にあったリハビリを実施し、職員が利用者一人ひとりの有する能力を引き出せるよう努めている。		
28	（13）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、利用者の課題とケアのやり方について、本人、主治医、家族、関係者と話し合い介護計画書を作成している。	法人内の連携を活かし、機能訓練指導員等のアドバイスを活かしながら、暮らしの中でのリハビリを介護計画に組み入れている。チェック表により実践状況を確認しながら、機能の維持、活用に結び付けている。定期的なモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「家族への状況報告」を毎月発行し家族に送付している。ケアの実践と個別の記録に記入し、申し送りノート、ミーティングで情報を共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、お盆お正月の帰宅など、本人家族の要望に応じて柔軟に支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区による「高齢者の集い」に参加したり、地域の方達のカラオケ大会に参加したり、隣にある保育園のイベントに参加するなど、地域との密着を維持しながら生活できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を利用している。異常時には当GHの嘱託医になっている桑原医院に相談し指示を受けたり、往診したりしていただいている。	入居時に、希望するかかりつけ医について確認している。必要や状況に応じて、協力医療機関への受診や往診が行われている。法人内の連携も活かしながら、日々の健康管理や早期対応につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在当GHには看護師は在職していないが、併接する介護老人保健施設の看護師長が統括して対応し、毎日の医療行為は同施設の療養部、デイケア、デイサービスに出勤している看護師が行うようになっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には医療機関のMSWや看護師と情報交換を行い、頻繁に面会に行くなどして、早期退院が出来るよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当GHでは重度化した場合や終末期の看取りは人員的にも設備的にも不可能であることを、入所時に説明し、併設する介護老人保健施設の看護師長、相談員と連携してそのような状態に陥った場合の対応を図るようにしている。	入居時に、重度化や終末期のあり方について説明している。併設する介護老人保健施設や協力医療機関との連携を図り、法人療養部からの看護師訪問等、出来る限りの支援を行っている。これまでには、運営推進会議や家族会にて、話し合いを行った経緯もあり、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応マニュアルを職員がすぐ目に付くところに貼り出し、かつ各自がシュミレーションを行うようにしている。救命講習は職員全員が受講している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は避難訓練を、昼間と夜間の設定で2回行っている。	法人施設合同にて、年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。これまでには、地域消防団に避難方法や経路を見学してもらった実績もあり、備蓄については関連施設全体で準備している。防災や危機管理に関する外部研修に参加している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、全員「さん」付けで呼んでいる。個人記録の入った書棚は施錠している。	法人の方針として、声かけの仕方を統一している。個別の生活習慣やライフスタイルの尊重に努め、選択や決定の場面を支援している。家族や知人の来訪時には、プライベートな時間を過ごせるよう配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの飲み物はメニューの中から利用者自身が選べるようにしていて、それを聞くのも利用者にやってもらっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から強制することはないが、ほとんどの利用者がリビングのフロアでみんなと過ごしている。来客があったときには自室にテーブルや椅子を持って行き、ゆっくり過ごしてもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に女性には化粧水、男性には髭剃りなど整容を支援している。外出時には一緒に服を選んだり、希望に応じて化粧の手伝いもしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家族をまじえてのバイキング形式の料理、または料亭やレストランに外出して食事をするなど、食事を楽しんでもらえるよう努めている。	昼食は法人厨房より提供され、ホームでは炊飯を行っている。朝・夕はホームでの調理となり、旬の食材を用いる等、季節感ある食事の提供を心がけている、職員も同席し、和気藹々とした食事風景があった。家族と食事する場面も多く、ホームでのバイキングや外食等、「食」を楽しむ機会も多い。おやつの時間には、入居者がカードを配り、好きな飲み物を選択できる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、各自の食事量と水分量をチェックおよび記録している。献立については持病に応じ併設の介護老人保健施設博愛苑の管理栄養士によるアドバイスを受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、総義歯を使っている利用者については毎日ポリデントで消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トレーニングパンツを着用している利用者は3時間おきにトイレ誘導し、かつ訴えがあったときにはその都度対応している。夜間は利用者全員がパッドを着用しているが、日中はうち2名が綿パンツのみで自立している。	排泄チェック表によるパターンや間隔の把握、また、何気ない仕草や表情から個別のサインの把握に努めながら、職員間で協議を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより3日間排便が見られない場合は看護師に依頼し坐薬の挿入あるいは浣腸の処置を行っている。体操、リハビリ、水分補給、献立の工夫により便秘解消に取り組んでいるが、習慣的に便秘を抱えている利用者もいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせた入浴はできないが、季節に合わせ入浴剤の使用、ゆず湯など、入浴を楽しんでいただけるよう努めている。	設備上、入浴日の調整が必要となっているが、希望や体調を踏まえ、無理強いとならないよう支援している。季節感を得られるよう工夫したり、入浴後の細やかな配慮により、楽しみなものとなるよう配慮が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に定めず自由にしていただいている。朝は声かけにて起きていただき、朝食は、共にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員のうちで薬係を決めて誤薬のないようあらかじめ配置している。症状に変化があった場合はすぐに嘱託医（桑原医院）に相談し指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、トレー拭き、掃除、ティータイムの注文伺いなど、一人ひとりの能力に応じたお手伝いをしていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそった外出は難しいが、その代わりに梅、桜、向日葵、コスモスと季節毎に、家族と共にバスで外出し食事を行うようにしている。その際は家族分の弁当も作っている。	法人のバスを利用し、年に3、4回、家族と共に外出を楽しむ機会を持っている。日常的には、周辺の散策、併設施設や近隣の保育園での交流の機会もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一定額のお金をお預かりしており、そのお金を持って一緒に衣類を選んで買物に行く。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方に住んでいる利用者には週に1度くらいGH宛に電話がかかり、GHの電話で会話されている。利用者からもGHの電話を使って会話するように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにテレビ、テーブル、ソファを配置している。リビングは日当たり良く、2面からの採光により明るく開放感のある空間となっている。また庭の花壇には四季の花を植えている。	清潔感ある共用空間は採光も良く、花壇に咲く季節の花を眺めることができる。食卓やソファー等、それぞれの方にとっての寛ぎの場所も確保されており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。対面式のキッチンや仕切りのない事務スペース等、全体的に開放感ある造りとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家族や友人が面会に来られた際には部屋にテーブルと椅子を持って行き、お茶を出してゆっくりとお話していただくように工夫している。また廊下にはソファを置いて気の合った利用者同士会話ができるような居場所を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた布団や家具を持ち込んでいただき、できるだけご自身の過ごしておられた部屋と同じ環境を整えて、居心地よく過ごせる工夫をしている。	家族とも協力しながら、テレビや箪笥、寝具等が持ち込まれ、安心して、居心地良く過ごせるよう工夫している。これまでの生活習慣やライフスタイルを継続できるよう、個別の配慮が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器洗いをする、トレー拭きをする、掃除の時雑巾がけをするなど、その人の能力に応じて役割を決め、できることはやっていただいている。職員の目の届く範囲で利用者が他の利用者の指導をすることもある。		